

＝市民の声募集中＝

江田島市について
思うこと

今回はJ A各支店の支店長に市民の声をお願いしました。
《問い合わせ先》議会広報特別委員会 ☎42-6310

市民の声

農業振興を軸とした
江田島市活性化について

J A中町支店
支店長 二藤 康行



農業とは、生命産業であり、人間が生きて行く上で欠かす事のできない「食」の源であり、単調作業の繰り返しという点で、人間形成に大きな影響を与えています。江田島市における農業従事者の高齢化と後継者不足、耕作放棄地の拡大等が問題です。J A呉では、農業者の所得増大に向け、農業塾や農産物産直店舗の拡充を行い、販路の増大を進めております。

中町支店では毎週木曜日に朝市を開催しており、中町地区で収穫された野菜を楽しみに来店される地域の皆様のために、今後も地域の拠り所としての拠点を目指すべき目標としております。今後は支店ふれあい委員会の中で地域の活性化に向けた活動について意見交換を行い、実現させていきたいと思っております。地域の活性化のために「特産物」は多い方が効果的だと思います。

たとえば、中町にはキングトマトという名で独自の栽培方法による高糖度トマトがあります。この様な埋もれている宝を行政と協力して特産物化し、農業を軸とした新たなビジネスモデルの創造を多様な品目で行う事ができたとすれば、江田島市への定住者の増加が見込め、後継者不足や高校の存続問題に少しでも結び付くのではないかと考えております。今後の農業振興について



て、行政・J A・生産者・地域の企業が一体となり、問題解決に向き合いたい、魅力ある江田島市のために、できる事やすべき事を考え、足元の一步から実践していきたいと思っております。

仕事を通じた地域
貢献を目指して

J A深江支店
支店長 平岡 礼行



私は、15年前に、広島市内の自動車販売会社から地元J Aに転職しました。職場では上司や同僚の方々に支えて頂き、又、地域では、消防団活動等への参加によって、転職前には味わえなかつた人との強い結びつきを感じる事が出来、今では地元へ帰って、本当に良かったと実感しています。現在、私が勤務しておりますJ A呉深江支店は、大柿町の南西部に位置し、

江田島市の中でも自然豊かな地区にあります。管内では柑橘栽培が盛んで、石地ミカンをはじめ甘夏・ワシントンネーブル等の晩柑類が多く作られています。しかし、近年、生産農家は減少し、耕作放棄地の拡大とともにイノシシ等の獣害も増え、農業を取巻く環境は厳しさを増しております。J Aとしても、新たな担い手を募るため、農業塾やふれあい産直市の開催、更には

農業資金相談の受付等、様々な施策を打っておりますが、抜本的な解決には至っておりません。一方で、江田島市においても同様な諸問題に対し、将来を担う農業者の育成や地域特性を生かした農業経営が出来るような様々な施策を打たれていきます。今後は関係機関等との連携強化が求められ、オリブ等、市のイメージとして定着しつつある農産物の生産促進を図り、



江田島ブランドの更なる確立に向けて、共に歩んで行くことが大切だと思います。私自身が、帰って来て良かったと思えた江田島市の魅力が更に発展出来るように、私も微力ではありますが貢献して行きたいと思っております。

農業と漁業と自然

J A切串支店
支店長 尾川 昌弘



私は、江田島市に移り住み1年余りになります。瀬戸内の温暖な気候に恵まれ、自然豊かな生活をするには最適な場所だと思います。しかし、高齢化・人口減少問題に直面しており、このまま人口が減り続けると存続自体が危ぶまれます。江田島市が元気になる為には、農業が元気になるには、ばいけなと思いません。その為には山や里の整備が欠かせないのでないでしょうか。道路のす

ぐ側の畑に雑草が生い茂ったり、山に入ることができなくなったり、悲しい光景が最近目立つようになってきました。何も手を掛けないことが自然ではないと思えます。管理された山里にこそ自然の恵みはもたらされません。島内を車で走ると耕作放棄地が多く目につきます。自分の畑もしくは親ご先祖の畑をお持ちの方がいらつしやると思えます。まずは自分の土地か

ら美しい江田島市を取り戻しませんか。家庭菜園を始めませんか。J Aでは農業初心者向けの野菜講習会を定期的に開催しております。休日や定年後の趣味として農業をはじめましょう。農業をしていない方も「野菜は地元産がいい」と言う方がおられます。農業に関わっていないくても江田島市の農業の応援は色々な形で出来ると思えます。江田島市に移住されて

来られる方、私自身も江田島市の自然には大変魅力を感じています。地元に住む者が美しいと感じる自然を取り戻し、専門の農家の方が元気をだし、市民が農業に関わり、いつでも地元の新鮮な野菜が購入できる環境作りを行政、市民と共に進め、祖先から受け継いだ江田島市の美しい自然を次世代に繋げて行きたいと思えます。

地域活性化について

J A三高支店
支店長 道本 啓二



現在、江田島市は少子高齢化・人口減少・後継者不足が一段と進んでおり、三高地区も同様な問題となっております。そこで地域における活性化の在り方・必要性・方向性をしっかりと考え行動する時が到来していると思えます。当三高地区は、広島市宇品港に、フェリーで1日16便、片道40分の航路で結ばれ、通勤・通学・通院と利便性が高い地区となっております。自然豊

かで綺麗な海・山に囲まれ、豊富な水源の木下水流を活用し、水稲・野菜・柑橘・花卉(特に菊は古くから栽培されており江田島市は、県内でも有名な産地です。)などが栽培されており、そして水流は海へと流れ込み、全国的にも知名度の高いカキの養殖へも貢献しています。これからの取り組みとしては、「農業関係の六次産業化の推進」「農業者の所得増大」「農業の

生産拡大」「農家民泊の増強」「地産地消型マーケット」またインターネットの活用で江田島市のホームページの充実、市内観光地の全国アピール、四季折々の特産物の紹介、農・水産物のブランド化、「かきカキマラソン大会」の大々的なPRなど積極的な取り組みが不可欠です。最後に江田島市全体の活性化の検討を重ね、行政を中心に住民の方々・農協・漁協・社協・商工



会を交えて、江田島市をどう活性化するか、できることから実行して頂ければ幸いかと思っております。